

The Premiere Vol.5

北の大地のオール新作初演コンサート！

札幌コンサートホール
Kitara 小ホール

※未就学児のご入場はご遠慮ください。

【新型コロナウイルス感染防止に関するお願い】
発熱等のある方、体調にご不安のある方のご入場はご遠慮願います。
また、ホール内では常時マスクをご着用ください。ホールには消毒液
を設置しておりますのでご利用ください。
まことに勝手ながら、出演者へのプレゼント等のご遠慮させていただきます。
また、出演者との面会は出来ません。ご了承ください。

本公演は、札幌市文化芸術活動再開
支援事業を活用した行事です。



主催: The Premiere Vol.5実行委員会
協賛: 全音楽譜出版社、カワイ出版 協力: ジョヴァンニ・レコード
後援: 札幌市、札幌市教育委員会、札幌合唱連盟、全日本合唱連盟、JCD日本合唱指揮者協会

2022年
8.13 Sat.

.....
18:00開場
18:30開演

本日の演奏会は
ライブ録音で収録し、
後日CD制作販売いたします。

予約の申し込みは、QRコードまたは以下のアドレスより
<https://kamome.ne.jp/gvcs/>

●本日の演奏の一部は
期間限定で配信予定です。
YouTube「きいちゃんねる」

ご挨拶

本日は、「The Premiere Vol.5 北の大地のオール新作初演コンサート！」にお越しいただき、誠にありがとうございます。

The Premiereは4人の新進作曲家による合唱新作を初演するとともに、楽譜を出版し、初演音源によるCDをリリースするという稀有な演奏会です。2009年に大阪で第1回が開催され、現在第一線の作曲家として活躍している北川昇、鷹羽弘晃、松波千映子、松本望の4氏の組曲が初演されました。以来名古屋、東京、仙台と地を移しながらその都度組織された実行委員会により受け継がれ、The Premiereから生まれた合唱曲はその後たくさんの合唱団によって歌われ続けています。

札幌で開催されることになった第5回は、当初2021年2月に開催予定でしたが、コロナ禍により2度にわたり延期を余儀なくされました。この間、練習できない苦しい日々が続き、各合唱団ともに存続自体が危ぶまれるほどの時期がありましたが、何としてもこの素敵な新曲達を北海道から発信したいという想いは逆になるばかりでした。ようやくこの日を迎えることができたことに安堵しています。

さて、去年は東日本大震災から10年にあたります。本日は4つの初演ステージのほか、震災後にカワイ出版様が企画した「歌おうNIPPON」プロジェクトから生まれた4曲を演奏させていただきます。情熱あふれる新作とともに、心あたたまる後半のステージもお楽しみください。

最後になりましたが、度重なる延期にもかかわらず初演を待ち続けてくださった作曲家の先生方、ご協賛いただいた全音楽譜出版社様、カワイ出版様をはじめ多くの関係者の方々、そして本日お越しいただいた皆様に心から感謝申し上げます。

実行委員長 平田 稔夫

PROGRAM

混声合唱とピアノのための組曲

「桜の歌」

作詩 与謝野晶子 作曲 五十嵐琴未

1. 桜の歌
2. 初夏
3. 雪

合唱 リトルスピリッツ
指揮 北田悠馬
ピアノ 石井ルカ

女声合唱とピアノのための組曲

「花たちへの讃歌」

作詩 野呂昶 作曲 宮本正太郎

1. ざくろの実
2. 冬のバラ
3. あなたのほほえみは
4. 祈りのかたち
5. わたしのすべてはあなたに

合唱 コール・クク
ピッコロ・ヴェルデ
指揮 尾崎あかり
ピアノ 豊田早苗

〈休憩〉

男声合唱組曲
「この道より」
作詩 武者小路実篤 作曲 藤嶋美穂

序

1. 進め、進め
2. 雨の中の樹々
3. 戸をたたく音
4. この道より

合唱 どさんコラリアーズ
指揮 佐古宜道
ピアノ 石井ルカ

混声合唱とピアノのための
「空への祈り」
作詩 八木重吉 作曲 松下倫士

1. 心よ
2. 太陽
3. 空が凝視てゐる
4. 息を殺せ
5. 母をおもふ

合唱 THE GOUGE
指揮 平田稔夫
ピアノ 福森百伽

〈休憩〉

「歌おうNIPPON」プロジェクトステージ

「前へ」
作詞・作曲 佐藤賢太郎

合唱 コール・クク
ピッコロ・ヴェルデ
指揮 尾崎あかり
ピアノ 山口朋子

「ワクワク」
作詩 谷川俊太郎 作曲 信長貴富

合唱 どさんコラリアーズ
指揮 佐古宜道
ピアノ 石井ルカ

朗読とユニゾンによる
「宮沢賢治の最後の手紙」
作詞 宮沢賢治 作曲 千原英喜

合唱 リトルスピリッツ
指揮 北田悠馬
ピアノ 石井ルカ

「見上げてごらん夜の星を」
作詞 永六輔 作曲 いずみたく
編曲 信長貴富

合唱 THE GOUGE
指揮 平田稔夫
ピアノ 福森百伽

1st STAGE

混声合唱とピアノのための組曲

「桜の歌」

作詩 与謝野晶子 作曲 五十嵐琴未

日本語の美しさ、言葉一つひとつの放つ色彩感に魅力を感じて、与謝野晶子さんのこの3つの詩を選びました。絵画、日本画を見ているかのように鮮やかな情景を想起させる言葉に、音が自然と絡み、流れていったら良い…と思いながら作曲しました。3曲それぞれが持つ異なる色彩を、強く感じて演奏していただけたら嬉しいです。作曲者が思う色合いと演奏のイメージのメモを少し、一例として下に記しておきたいと思います。

1. 桜の歌

桜色、桃色、赤などのグラデーション、京おんな、華やか、艶やかな色合い。出だしの音色は解放されて開くように。透明感を持って柔らかく、華やかに。

2. 初夏

青、緑、白、赤い靴、走っていく美少年。ピアノの前奏の開始から、決然とした爽やかな音色で。a cappellaの部分はテンポすっきりと。

3. 雪

白、銀色、薄雪。静かな曲調の中、練習番号②から徐々に変化し中盤のピアノソロに繋いでいく。59小節からのフレーズに曲の重心があるように。

初演と出版に向けお世話になった、早川由章様、阿出川彬様を始めとするカワイ出版の皆様、そして、コロナ禍の影響で2年越しとなってしまった初演を実現して下さった札幌の合唱団リトルスピリッツ指揮者の北田悠馬様、ピアニストの石井ルカ様、団員の皆様に、深く感謝申し上げます。

五十嵐 琴未

2nd STAGE

女声合唱とピアノのための組曲

「花たちへの讃歌」

作詩 野呂昶 作曲 宮本正太郎

2020年、突如として世界中でCOVID-19が蔓延し始め、私たちの生活は一変しました。人々は終わりの見えない状況に疲弊し、私も音楽家として行き場のない感情を抱きました。ちょうどその頃「花」を題材とした野呂昶先生の詩に出会い、それらに描かれた絶対的な包容力と平穩を、今こそ音楽にしたいと思い作曲をはじめました。

5篇の詩からなる組曲「花たちへの讃歌」は単曲での演奏も可能ですが、「1.ざくろの実」で提示されたモチーフが「5.わたしのすべてはあなたに」で回帰したり、調性的なつながりを持たせることで構成感を演出しています。ぜひ組曲としての一貫した大きな流れを感じていただければ幸いです。

この厳しい状況の中、初演に向けて尽力してくださった指揮の尾崎あかり先生、ピアニストの豊田早苗先生、ピッコロ・ヴェルデ、コール・ククのみなさんに心から感謝いたします。また日頃より大変お世話になっている全音楽譜出版社の新居隆行氏、阿部真帆氏にこの場をお借りして感謝申し上げます。

1. ざくろの実

女声合唱がもつ透明性やみずみずしさを生かし、さわやかなプレリュードとして仕立てました。基本的にシンプルな和声でつくられています。曲の終結部分においてH dur(合唱)G dur(ピアノ)の主和音が交錯します。この響きに「ひそやかなきらめき」を表現しました。

2. 冬のバラ

導入部分では6声に分けられた合唱が金属打楽器(本日は2つのマンジーラ)とピアノを伴い、詩に描かれた冬の情景を演出します。やがて決然とした律動が生まれ始め、それまで叙情的に奏されていた旋律が表情を変えながら再現されたのち、激しいピアノリズムと和声クライマックスを導きます。

3. あなたのほほえみは

標語は「cullando(揺りかごで揺らすように)」。重心が曖昧なやわらかなピアノと、和声・旋律のゼクエントが、はかなく内的な世界を描きます。

4. 祈りのかたち

全編を通してアカペラで書かれた静かな作品です。組曲全体を俯瞰してみると第五曲のためのオアシス、と言えるかもしれません。静謐なA durの響きからattaccaで終曲へ。

5. わたしのすべてはあなたに

第一曲の動機が再現されることで、終わりを予感させるようにはじまります。これまでの全てを回収するように高揚した音楽は、合唱によるfffのハーモニーと、花開くようなピアノのスケール(上下に逆行し音域が開いていく)によって輝きながら締めくくられます。

宮本 正太郎

3rd STAGE

男声合唱組曲

「この道より」

作詩 武者小路実篤 作曲 藤嶋美穂

武者小路実篤は白樺派の代表的な作家で、多くの小説や詩、戯曲を著したほか、理想郷の実現を目指した「新しき村」の創設に取り組んだことでも知られる。自らの内面をうたう彼の詩からは、自然と調和して生きることの喜びが感じられ、「自分を生かす」「天命を全うする」という人生哲学を読み取ることができる。

「我を生かす道」とは自分が意志をもって選んだ道のことだろうか。この道歩くことは最初から決まっていたのだろうか。詩を読むたびに心の中に生まれる、人生や運命についての様々な問いを、音楽にすることで誰かと分かち合いたいという思いが随分前から私の中にあった。この度作曲の機会をいただき、この問いに対して自分なりの答えを探すために5つの詩を選んだ。私の音楽は詩の世界を表現するには遥かに及ばないかもしれないが、詩を味わい考えるきっかけとなってくれればと思う。

序

人生における大きな決断をしたであろう一人の男の独白から組曲は始まる。自分で道を選び取った充実感と、歩き始めてもなおよぎる迷いや不安を描いた。

1. 進め、進め

困難に見舞われても、ひたすらに前を向き歩き続ける姿を、マーチ風の曲調に乗せて歌いあげる。麦が出来そこなった、家が焼けた・・・笑えない現状をあくまで軽やかに、すべてを肯定しながら突き進んでいく様子は勇ましく、心強いが、どこかユーモラスで微笑ましくもある。

2. 雨の中の樹々

熱い心を冷ますように雨が降る。自分で動くことができない樹々は雨を静かに受け入れ、その姿を通して人間の在り方を問う。ピアノによる雨の音が止んだ一瞬、短いレチタティーヴォによって中心的なテーマが歌われる。

3. 戸をたたく音

運命はかく扉をたたく。ベートーヴェンのものとされるこの言葉の真偽はわからないが、運命というものを考えるときにはやはり、突然やってきて扉を叩くものとしてイメージされる。ピアノが繰り返す鳴らす同音連打（ノック）に誘われてだんだん扉に近づいていき、期待と焦燥感の中で思い切って扉を開けるところで曲は終わる。扉の向こうにあるものが何なのかは受け手によって違う。あなたのもとを訪ねてきたのは何だっただろう。

4. この道より

原詩「一筋の道を歩くなり」に登場する旅人のように、人生を肯定して歩むことができたなら、その人は幸せだろう。人を羨むことをせず、自分の道を喜んで歩く姿は、迷いの多い私のような者には眩しく見える。でもそれが幸せなのは偶然にも天から愛されたからではなく、与えられたその道を自ら愛し、味わい、感謝するという行為があってこそだと思われる。曲の終わりに、組曲冒頭の詩がかたちを変えて登場するのは、この旅人自身に歌わせたいと思ったからだ。そして言葉が歌い手それぞれによって解釈され、その人自身の言葉となって歌われることを夢見ながら音を書いた。歌い手の数だけある「この道」が、舞台の上で鮮やかに表明されることを願う。

藤嶋 美穂

4th STAGE

混声合唱とピアノのための

「空への祈り」

作詩 八木重吉 作曲 松下倫士

この作品は私自身初めて作曲した混声合唱組曲です。子供の頃、少年少女合唱団に所属し邦人作品からミュージカル、ミサ曲まで様々なジャンルの作品に触れ、合唱の美しさや楽しさを沢山味わっていました。大学在学中より吹奏楽作品を作曲する機会が多く、卒業後は音楽コースのある女子校で非常勤講師をしていたため、女声合唱を作曲することもありましたが、混声合唱を作曲する機会はほぼなかったため、今回作曲させていただき大変嬉しく思います。

「空への祈り」は八木重吉の詩に曲をつけました。どの詩も比較的わかりやすい言葉で書かれています。その中に含まれる奥深さを感じながら、そして一つ一つの言葉から生まれ出る色合いを大切に作曲しました。普段作品が完成するまでは、まるで出口のないトンネルにいるような感覚になる時もありますが、八木重吉の美しい言葉の世界に触発され、作曲の時間は非常に充実したものでした。

この作品は5つの曲で成り立っています。それぞれの曲については聴き手の皆様に自由に想像していただければと思いますが、簡単に解説を書かせていただきます。

「心よ」は自分の心を愛おしく思う気持ちを柔らかな音楽で表現していますが、後半は憧れに対する強い気持ちが表れています。

「太陽」は言葉の面白さを生かして、音楽にも様々な仕掛けをしています。最後はミュージカル風のイメージで作曲しました。

「空が凝視てゐる」はこの組曲の中で中心になる曲です。空(神様)は自分の全てを見透かしていて、その強い眼差しにより心が押しつぶされそうになりますが、大きな愛情で深く包み込んでくれる様子を表現しました。

「息を殺せ」はとても短い詩ですが、張り詰めた緊張感と純粹無垢な赤ん坊の対比を表しています。

終曲の「母をおもふ」は溢れ出る大きな愛情を表現した曲です。母への想い、そして移りゆく空の色や時間の経過、そして心が震えている様子を表現しています。

「空への祈り」という題名は詩集のタイトルではなく、5つの詩に共通する「空・祈り」を表したものです。

The Premiere vol.5はコロナ禍の影響で何度も延期になりましたが、沢山の方のお力添えで初演を迎えることができました。今回貴重な機会を与えて下さり何度も調整して下さいました。早川由章さん、そして本日初演して下さいましたTHE GOUGEの皆様と指揮の平田稔夫先生、ピアノの福森百伽さん、そして関係者の方々に心より感謝申し上げます。

松下 倫士

PROFILE

五十嵐琴未 作曲家
Kotomi IGARASHI



桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)ピアノ科、桐朋学園大学音楽学部作曲科卒業。同大学研究科を修了。作曲を鈴木輝昭、ピアノを小森谷泉、Laurent Teycheneyの各氏に師事。朝日作曲賞公募にて混声合唱とピアノのための組曲「よひやみ」が佳作入選。2020年9月、サントリーホールにて「《櫻暁》for Japan Philharmonic Orchestra」が山田和樹氏指揮日本フィルハーモニー交響楽団により委嘱初演される。合唱団ゆうか、樹の会、21世紀の合唱音楽を考える会 合唱人集団「音楽樹」会員。日本作曲家協議会会員。桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)教諭、桐朋学園大学音楽学部非常勤講師。

宮本正太郎 作曲家
Syotaro MIYAMOTO



岐阜県高山市出身。国立音楽大学附属高等学校を経て、国立音楽大学を首席で卒業。並びに矢田部賞を受賞。

第82回読売新人演奏会に出演。2021年、女声合唱とピアノのための組曲「定点観測」で第32回朝日作曲賞(合唱)受賞。2022年、第28回奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門 第三位および中田喜直賞を受賞。

自身の作品は全音楽譜出版社より刊行されている。

在京オーケストラのピアノ・チェレスタ奏者として客演するなど、ピアニストとしても活動。

作曲を相澤直人氏に、和声法を上田真樹氏に師事。

藤嶋美穂 作曲家
Miho FUJISHIMA



北海道札幌市出身。2011年北海道大学文学部卒業。

幼少よりピアノを、北海道札幌北高等学校在学時より合唱を始める。これまでに多くの演奏会等で合唱歌手、ピアニストとして活動。2008年に混声合唱団THE GOUGEを設立し、代表を務める。

作曲は独学。合唱団の依頼等により合唱曲の作曲・編曲を行うほか、小学校の校歌制作も手がける。女声合唱曲「夜の雪」で第1回ハンナ作曲賞合唱部門優秀賞。

主な作品に、無伴奏男声合唱のための「優しき歌」、無伴奏男声合唱のための小組曲「君がため」、混声合唱組曲「あさきよめ」など。

松下倫士 作曲家
Tomohito MATSUSHITA



東京藝術大学音楽学部作曲科を経て、2009年同大学院修士課程作曲専攻修了。卒業時に藝大同声会賞受賞。2014年東京音楽大学大学院修士課程伴奏科修了。これまでに日本交響楽振興財団第29回作曲賞、第5回北本ピアノコンクール最優秀賞、第22回宝塚ベガ音楽コンクールピアノ部門第2位。奏楽堂日本歌曲コンクール第19回作曲部門(一般部門)入選、第51回JBA下谷賞など多数受賞。吹奏楽やアンサンブル作品が全国各地で演奏されており、近年は声楽や合唱曲、またアレンジにも携わっている。日本コロムビアより「僕が僕であるために〜尾崎豊 オンピアノ」(編曲・演奏)をリリースしているほか、ピアニストとして数多くの演奏家と共演も多い。洗足学園音楽大学、東京音楽大学非常勤講師。

PROFILE

リトルスピリッツ



2008年、指揮者・北田の呼びかけにより創団。
以降合唱祭やコンクールなどに出演、今年で15年目を迎える。
新作初演活動も積極的に行っており、創団10周年の際には『交響する二つのグローリア』を信長貴富氏に委嘱、初演を行う。
2023年度には、現在延期中の『森山至貴作品個展演奏会Vol.1』も企画中。

北田悠馬

Yuma KITADA
指揮者



2008年、リトルスピリッツ創団と同時に指揮者就任。
現在、VOCiS ANiMAES・北海道札幌国際情報高校合唱部・北海学園大学グリークラブなどで指揮、指導を行う。
また、『きいちちゃんねる』というYouTubeチャンネルにて自身が指揮した演奏動画の発信、ゲーム配信なども行なっている。

石井ルカ

Ruka ISHII
ピアニスト



札幌大谷短期大学音楽科卒業、同専攻科音楽専攻ピアノ演奏コース修了。修了時に学長賞受賞。同校の定期演奏会、卒業演奏会などに出演。北海道教育大学大学院修士課程修了。ソロ・伴奏・室内楽等、多数の演奏会に出演。平成22年度札幌市民芸術祭新人音楽会に出演し、奨励賞受賞。現在、(株)ヤマハミュージックリテイリングピアノ科講師、石井ピアノ教室主宰、混声合唱団響友会、女声合唱団虹の会、リトルスピリッツ各ピアニスト。

コール・クク



団名の由来となる9月9日に結成した34年目の女声合唱団。2019年に長年指揮を務めた久々津典子先生から尾崎あかり先生へ交代し、現在に至る。全日本おかあさんコーラス全国大会ひまわり賞を2004年・2015年に受賞。札幌市民芸術祭奨励賞を2011年・2019年に受賞。2008年HTB開局40周年スペシャルドラマ「歓喜の歌」合唱協力、出演。2022年8月28日に東京で開催される全日本おかあさんコーラス全国大会に出場することが決定している。

ピッコロ・ヴェルデ



真駒内緑小学校PTAコーラス「グリーングラス」を前身に、平成24年4月結成。平成25年と平成29年に、市民合唱祭において札幌市民芸術祭奨励賞を受賞。平成28年12月 さっぽろオペラ祭北海道二期会オペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ」に出演。令和元年7月 PMFプレミアム・コンサート エッセンバツハ指揮「マーラー作曲 交響曲第8番変ホ長調」に出演。

尾崎あかり

Akari OZAKI
指揮者



2006年より合唱指揮者として活動。北海道大学合唱団を指揮し、全日本合唱コンクール全国大会において、これまでに4度金賞を受賞。CD「珠玉のハーモニー vol.9」「鈴木輝昭男声合唱作品集」等に演奏が収録されている。2019年PMFエッセンバツハ指揮「マーラー交響曲第8番」にて合唱指導を担当。初演作品に、鈴木輝昭作曲「満天の感情」、土田豊貴作曲「4つのノヴェレッテ」がある。札幌市民芸術祭奨励賞を3度受賞。HBC少年少女合唱団、コール・クク、ピッコロ・ヴェルデ、北海道大学合唱団各指揮者。札幌合唱連盟任命理事。JCDA日本合唱指揮者協会会員。

豊田早苗

Sanae TOYODA
ピアニスト



桐朋学園大学音楽学部ピアノ専攻卒業。ピアノを片岡みどり、松浦豊明、小林仁、北村陽子の諸氏に師事。チェンバロを鍋島元子氏、伴奏法を岩崎淑氏に師事。室内楽、器楽伴奏者としての活動、大阪・相愛大学音楽教室講師を経て'01札幌に転居したが、子どもが真駒内緑小学校に転入したことにより参加したPTAコーラスが現在のピッコロヴェルデであり、在籍は20年に及ぶ。北海道大学合唱団、HBC少年少女合唱団ピアニスト。

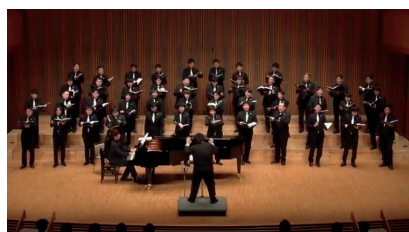
山口朋子

Tomoko YAMAGUCHI
ピアニスト



札幌大谷高等学校音楽科、同短期大学音楽科卒業。同専攻科、研究科Ⅱ修了。札幌市民芸術祭新人音楽会、三岸好太郎美術館ミニ・リサイタル等に出演。また、加藤祐子氏とピアノDuoを組み、第30回ビティナ・ピアノコンペティションデュオ2台部門 全国決勝大会優秀賞受賞。北海道フーゴ・ヴォルフ協会、奏エール、谷の音会各会員。札幌大谷高等学校音楽同窓会『ペオニア』代表。毎日こどもピアノコンクール審査員。現在、エルム楽器ピアノ講師。コール・クク伴奏者。

どさんコラリアーズ



2010年、指揮者・佐古宜道を中心に札幌にて結成。通称「Dコラ」。音楽監督に伊東恵司氏をお迎えし、道内外の各種合唱イベントやコンクールへの参加、過去3度の演奏会開催など、精力的に活動している。「すべてのはじまりはひとつとのであい」を合言葉とし、10年を超える活動の中で全国へ広がった仲間達と共に、北海道、ひいては全国・世界の男声合唱を盛り上げるべく、奮闘中。マスコットキャラクター「どさこライオン」の公式twitterは更新停止中。

佐古宜道

Yoshimichi SAKO
指揮者



和歌山児童合唱団を卒団後、徳島男声合唱団響、なにわコラリアーズで男声合唱に魅了され、徳島大学合唱団リーダークライスを団内指導者として全国大会へ導くなど、現在の活動の礎を築く。指揮・合唱指導を沼丸晴彦氏、伊東恵司氏に師事。ティーア=エステル・ロイトメ氏による指揮法講座でディプロマを取得。現在、どさんコラリアーズ、女声合唱団Stella Polarisにて指揮者を務めるほか、中高大学や一般合唱団等への指導・客演指揮を行っている。JCDA日本合唱指揮者協会会員。ACDAアメリカ合唱指揮者協会会員。

石井ルカ Ruka ISHII ピアニスト

(リトルスピリッツ参照)

THE GOUGE



2008年結成。これまでに全日本コンクール北海道支部大会12年連続金賞受賞。全国大会に計4度出場。そのほか、単独演奏会などの様々なステージを経験。2020年2月には初の演奏旅行として、清水町と富良野市にて地元合唱団との交流演奏会を開催。また、本年5月には作曲家松下耕など4人の同い年指揮者が率いる合唱団によるジョイントコンサート「Four Leaves Concert 3」を開催した。現在、高校生から60代まで幅広い世代のメンバーで活動中。

平田稔夫

Toshio HIRATA
指揮者



1962年旭川市生まれ。札幌北高合唱部、北大合唱団に在籍。1987年北大学院修士課程修了（有機化学）後に高校理科教員となり、混声合唱団Green Grass（標茶町）、男声合唱団Primo（室蘭市）指揮者として第1回演奏会開催に尽力。1996年から2017年まで札幌北高合唱部顧問。多くの全国大会に導く一方、信長貴富「ねがいごと」、松本望「やがて音楽が」などを初演。現在札幌第一高校合唱部顧問。北大合唱団OB会、THE GOUGE 指揮者。札幌合唱連盟任命理事。

福森百伽

Momoka FUKUMORI
ピアニスト



札幌市出身。北海道教育大学岩見沢校芸術課程音楽コース鍵盤楽器専攻卒業。在学中、ソロ・室内楽の学内選抜演奏会に出演。JRタワー展望室T38そらのコンサート等、多数演奏会に出演。これまでにピアノを佐藤敬美、二宮英美歌各氏に、室内楽を阿部博光、佐藤淳一、長岡聡季、フリーデリケ・キーンレ各氏に師事。現在、合唱ピアニストとして札幌市を拠点に演奏活動を行う他、カワイ音楽教室にて後進の指導にあたっている。